

令和6年度先進都市視察 報告書

大阪府南部市議会議長会

報告市議会	泉大津市議会
報告者	議長 堀口 陽一 副議長 森下 巖 事務局長 橋本 幸男
視察日時	令和6年7月22日（月） 13：00～15：00
視察先	東京都墨田区
視察内容	議会改革の取り組みについて
概 要	墨田区では、佐藤議長から歓迎の挨拶を受けた後、議会改革・議会広報改革特別委員会委員長である堀議員及び副委員長である小林議員から「議会改革の取り組みについて」の説明を受けた。 同区では、区民の負託にこたえるため、開かれた議会と議会活動の活性化を目的に、平成30年12月に「墨田区議会基本条例」を制定した。 それぞれの目的に応じた手段として、「開かれた議会」に関しては、分割質問方式の導入や議事堂以外での委員会の公開、区民等との意見交換会の導入などが特に印象深い取り組みであると考えられるが、特に関心がある取り組みとして、もう1つの目的である「議会活動の活性化」での手段として、具体的に取り組んでいる「通年議会」が挙げられる。 同区において、通年議会が導入されてから4～5年が経過しているところだが、令和元年から令和4年度までの実績において、通常、定例の本会議（一般的な定例会）以外に、合計11回の緊急議会もしくは臨時会を開催している。内容は、新型コロナウイルスや台風など、他の自治体であれば、緊急を要する事業であるため、執行部側の専決事項において行っている場合であるものを、同区では、議会の審議を経へ事業化しており、行政運営にも遅れや滞りがなく、緊急時の意思決定に議会も加わることができている状況である。
所 見	墨田区議会では、佐藤議長が早稲田大学政治経済学部出身であることから、早稲田大学マニフェスト大賞優秀政策提言賞獲得を目指して見事に授賞する等、目標を持って議会改革している所が高いレベルの政策に繋がっており、特筆すべきは、現在、必要な特別委員会を設置して議論を尽くしている事です。 また、同区は面積がほぼ泉大津市と同じにも関わらず、人口が4倍の28万人もあり、まずその人口密度の高さに驚かされた。議員定数も2倍の32人で、議会としても自治体としての財政規模もかなりの違いがある。 本市議会においても議会基本条例や議会BCPの策定は進み、意見交換会など一定同様に取り組んでいるが、通年議会や特別委員会での政策形成においての取り組みは大変参考となった。また、通年議会は、市長の独断的な専決をさせないという効果はあると考えるが、どこまでその範囲や認識を全議員で一致させるのかが必要であり、今後の課題と言える。 さらに、特別委員会が重要な政策分野ごとに設置されていることに驚かされた。議員定数が多いことからこうした取り組みも可能となっているが、重要な自治体の施策に対して議会全体として確認もされて進められ、独自に調査研究もして、提言書まで理事者側に対して出していることは二元代表の一翼としての役割を発揮されている点で、非常にレベルの高い取り組みと言える。 議会事務局の提案権についても説明があり、議会基本条例にも定められており、事務局との対等な関係を明確にして、より積極的な事務局の役割を発揮出来るものとして、それぞれの立場から明らかにしている。 これらの課題は本市議会においても、今後必要性などを議論していくことになれば、より政策形成などに市民の声を反映できるようになると考える。